

# 電子カルテシステムとリハビリ患者データベースとの連携について

株式会社ソフトウェア・サービス 顧客支援部長 田村 光

## 1. はじめに

公益社団法人日本リハビリテーション医学会のデータ・マネジメント特別委員会にて、開発及び提供されている「リハビリ患者データベース（以下、リハ患者 DB）」システムで入力される調査項目に関し、弊社電子カルテシステムの対応可能な範囲内において、そのデータ入力と保存（蓄積）を可能にするとともに、保存（蓄積）された電子カルテデータを 1 入退院につき、1 患者を 1 レコードとして、CSV 形式のファイルで出力し、リハ患者 DB システムで取り込みできるように対応したものであります。

## 2. 目的

リハ患者 DB システムで入力される調査項目は、弊社電子カルテシステムで入力される記録や評価項目と共通するものが多く、データ入力の負担軽減や正確なデータ集積のためには、電子カルテシステムから必要なデータを出力し、取り込む仕組みを構築することは非常に有用だと思われまます。本対応により、リハ患者 DB 事業に参加されている弊社ユーザー病院様においては、データ入力の負担軽減やデータの質の向上を実現できます。また、現時点で参加されていない弊社ユーザー病院様においても、本対応をご紹介させて頂くことで、リハ患者 DB 事業へスムーズに参加頂けるようにご支援できるものと考えております。

## 3. 方法

リハ患者 DB システムで入力される調査項目と弊社電子カルテシステムで入力される記録や評価項目との関連付けは、弊社が開発した「リハ医学会連携マスタ（以下、リハ患者 DB マスタ）」にて行うことが可能です。電子カルテシステム側の入力形式のまま取り込みできない項目については、どのようなデータ形式（値）に変換して出力するかの設定をリハ患者 DB マスタで行うこ

とで、リハ患者 DB システムにて取り込み可能な形式で電子カルテシステム内にリハ患者 DB データとして保存（蓄積）されます。CSV 形式でのファイル出力は、対象疾患と退院日（期間）を指定することで、対象患者様を抜粋し、データファイルを出力します。出力されたファイルは、リハ患者 DB システムに設置された専用ボタンにより、取り込むことが可能です。連携イメージは、図 1 に示したような流れになります。

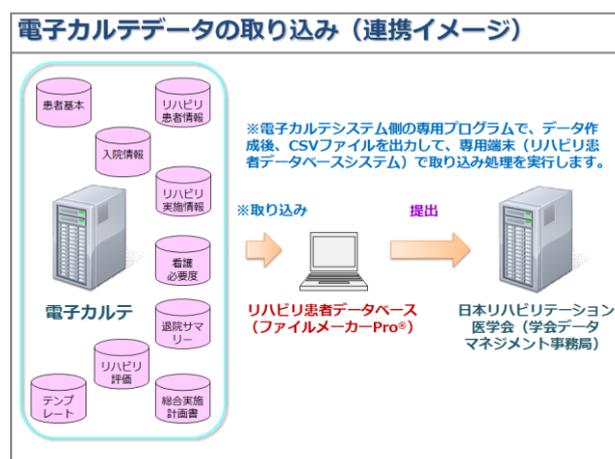


図 1 連携イメージ

## 4. 考察

現在、弊社ユーザーの熊本リハビリテーション病院様（熊本県）にて、先行リリースしており、リハ患者台帳項目、脳卒中、大腿骨頸部骨折、脊髄損傷の各リハ対象疾患・障害項目について、6～8割程度の項目数を連携できる状況となっております。今後は、複数の弊社ユーザー病院様へも導入展開するとともに、各項目の入力条件（入力運用）の精査を継続し、弊社電子カルテシステムにおいて、どのようなパターンで記録や評価項目を入力されても、リハ患者 DB システムで項目毎に定義されている入力条件に合致したデータファイルを出力できるよう精度を高めていくことを課題としております。